

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770700678		
法人名	社会福祉法人 博光福祉会		
事業所名	寿里苑グループホーム		
所在地	大阪府河内長野市加賀田885-2		
自己評価作成日	令和5年1月15日	評価結果市町村受理日	令和5年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和5年2月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当該事業所は、老人保健施設、デイケアセンターに併設されています。経験ある職員も多く、介護に関する研修だけでなく、様々な行事に力を入れています。また、居室からは沢山の自然を眺める事ができ、四季の移り変わりを感じながら日々過ごして頂いています。ご入居様一人一人の生活に楽しみ、やりがいを持って頂けるようにスタッフとの距離を大切に日々関わりを持たせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の法人博光福祉会は特別養護老人ホームなど多くの介護サービス・地域包括支援センター事業、さらに16か所の保育事業へと事業を拡大している。当グループホームは5階建て建物の介護老人保健施設・デイケアの複合施設の2階に1ユニットで開設して20年になる。ベランダは回廊でお茶タイムを楽しみ、遠くの金剛の山並み・川沿いの桜の開花等四季の移ろいを感じられる。2階エレベーター前では、ゴールデンレトリバーのさくらちゃんが寝そべりについて、法人はアニマルセラピーを取り入れて、繁殖をして多くの事業所で兄弟が暮らしている。施設長の医師や理学療法士・看護師など複合施設の安心して暮らせる環境、職員は月に1度(4~50人)が集まる全体会議で研修や話し合いが行われモチベーション向上に繋げ、利用者の笑顔が見られるよう工夫して支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	—	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念・グループホーム理念を基にサービス提供を行っている。新人研修だけではなく、年1回は法人理念について会議の中で議題を上げ、職員全員の意識統一に取り組んでいる。	法人理念を、私たちは「みんなのやさしい家づくり」を通じて「笑顔」ととけます。と設立時の理念を現況運営に沿った理念にして、入り口に掲示し映像で何時でも見られ、職員はクレドカードにして常時携帯している。グループホームの年間事業計画で役割・方針を決め毎月の会議時で話し合い確認して実践に取り入れている。グループホームの理念の話し合う用意がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和4年度は新型コロナウイルスの影響もあり、外出行事、外部ボランティアの受入れが行えていない。しかし、感染症対策を行いながら介護、看護実習生の受入れは行っており、外部との関わりを大切にしている。	地域の活動の情報は管理者の地元でもあり、清掃活動に参加しているが、夏祭りは中止で参加できなく、地域の方の介護など困りごとの相談を受けて地域の方と交流をしている。看護師や介護実習生・理学療法士の実習生の受け入れをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所への利用相談、見学だけではなく、認知症や介護に関する相談についても随時受付を行っている。地域の方に向けた介護教室等も検討しているが、新型コロナウイルスの影響もあり実現はしていない。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナウイルスの影響もあり、2ヶ月に1回のペースで書面での開催となっている。しかし、開催時には地域の方等との意見交換の場に繋がっており、貴重な時間となっている。	運営推進会議は書面開催として2か月に1度事業所の取り組み・行事等現況報告をし、市の介護保険課・地域包括支援センター・家族に送付している。	2か月に1度書面開催として現況報告を地域包括支援センター・家族に送付しているが、地域密着型事業でもあり、地域住民に参加を呼び掛けられる工夫をして、広く意見を得られる会議とされることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあれば市担当者に連絡を取り、確認が行える良好な関係が構築されている。また、2ヶ月に1回は運営者会議報告に行き、現状報告を行っている。	高齢介護課に申請や報告・相談をして良好な関係を築いている。コロナ感染予防の手袋・ガウンの支給を受けワクチン接種の情報を受けている。グループホーム部会に所属しズーム会議に参加して情報交換している。行政のイキイキフェスタに参加して協力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体として定期的に身体拘束、高齢者虐待の研修を実施している。また、3ヶ月に1回は委員会を開催し施設全体で身体拘束に関する意識を高めている。また、外部研修等についても機会があれば積極的に参加している。	マニュアル・指針を整え身体拘束適正化の為に委員会を3か月に1度開催して、会議で事例を用い勉強して確認している。年2回法人の身体拘束の研修に参加している。身体拘束について言葉等グレーの部分の話をして、理解し拘束のないケアに努めている。利用者と一緒に散歩やベランダに出ておやつタイムを楽しみ孤独感のないケアの支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、施設全体で研修を実施している。研修については、他施設で起こった事件、事例等についてもふれ、施設で起こりうる可能性についても検証をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権研修については施設全体で定期的に研修を行っている。成年後見人制度については、実際に利用されている利用者もいる為、会議等を通して内容理解に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時には担当職員より丁寧に説明を行っている。また、担当窓口についても明確化している事で家族様が安心して相談しやすい環境を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置はしているが、新型コロナウイルスの影響で面会制限をしている事で意見交換の頻度が減っている。その為、日々の状況連絡を適宜実施した際に家族様との関わりを大切にし、要望等を確認するようにしている。	家族に定期的に電話をして利用者の様子を伝えて要望を聞いていて、2か月に1度ローズマリー通信に、利用者の写真を載せて送り、家族からよくしてくれるの声が届いている。家族から面会したいとの要望でオンライン面談の取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々の職員との関わりはもちろん、会議の中で意見交換を行い、職員からの意見、要望の相談を行っている。また、定期的な面談を実施する事で職員との意見交換の場を設けている。	毎月職員会議が行われ職員は利用者についての意見やレクについて提案している。建物全体の会議も月1回開催され他事業所職員と交流、時に理事長の訪問もある。職員は身体拘束・事故・管理・衛生・ライフの担当を受け持ち、資格取得の支援体制が受けられる。年2回管理者面談がおこなわれて相談や意見交換をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者(理事長)については、不定期に来苑され職員に対し労いの言葉を掛けてくれている。また、定期的な人事考課の実施、ストレスチェックの実施等により職員の適切な評価体制を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの影響で頻度は減っているが、法人全体で新人研修、マナー研修、アンガーマネジメント研修、相談員研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	河内長野市内の事業所が定期的に集まりグループホーム部会を開催している。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で書面での開催やZOOM開催となっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時のアセスメント、面接時に趣味や嗜好調査を実施し、施設にて対応できる事の説明を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談、面接時に入居者のみならず家族様についても要望の確認を行っている。また、面会時等においても随時要望を確認し、都度対応を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接、契約時に本人様と家族様からのニーズを確認し、施設での対応方法について説明を実施している。その後、その内容をグループホーム職員と共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様についてはできる事は可能な限り自身で行って頂く事を大切にし関わりをもっている。また、日々の生活の中での役割や楽しみを持って頂けるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの影響で今年度は困難であったが家族様の面会や外出等を可能な限り促している。また、近況報告についても定期的に実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの状況にもよるが、家族様の協力を得ながら外出や外泊の協力を相談し、馴染みのある場所、親しい方との交流の機会を確保する。	家族が訪問してくれたりお墓参りに出かけたりしている。お正月自宅に帰り家族や親戚と会っている。おもちつきをしたり昔ながらの行事を楽しんでいる。ユーチューブで観光ガイドを見たり、近くに花見にドライブしている。携帯電話を持ち家族と話している人や年賀状を出している利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の個々の生活リズムを大切にしつつ、ユニット内の他の入居者様と良好な関係が築けるようにレクや日々の生活に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除時の際には、退所後の相談窓口職員の案内を行っている。また、退所後の担当ケアマネや事業所に対しても必要な情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の身体、生活状況を把握し、面接時に確認した在宅での情報を職員間で共有している。また、会議やミーティング内において、個々のケア内容について検討し、随時対応している。	入居時に家族や利用者とは面談して聞き取り作成した面談表を参考に、情報を共有して想いの把握をしている。生活の中での会話や仕草等で得た情報は申し送りノートに記載してミーティング時に話し合い情報を共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時、サービス導入時に入居者様と家族様からの情報を職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会議やミーティングにて個々のケアプラン内容の把握、支援方法を検討している。また、モニタリングを行いケア内容については必要に応じて変更している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者の考えに偏らない為にスタッフの意見をきき作成している。また、家族様の意見も反映するよう心掛けている。	短期目標3か月長期目標6か月としている。介護計画作成時は家族からの要望を聞き、医師の意見を取り入れ、理学療法士・看護師の意見を聞き、毎月のモニタリングを参考に担当会議を経て介護計画は作成している。利用者の状態に変化があれば関係者に連絡をして随時介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子を個人記録に記入している。情報共有するだけでなく、必要に応じてミーティングなどの時間を活用し介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームだけでサービスを完結せず、必要に応じて施設全体で柔軟にサービス提供を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染症に伴い、地域住民との関わる機会は殆どない。しかし、落ち着けば地域のお祭りや外出行事を積極的に計画していく予定である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については毎週往診できる体制をとっており、それ以外についても常に連絡できる体制を整えている(歯科医についても週1回)。また、内科以外の受診についても近隣の医療機関と良好な関係が構築できている。	契約時に希望を聞いて外部受診には皮膚科、眼科、整形外科等に通院の支援体制がある。協力医療機関の内科は週1回(全員)、精神科(月2回)の訪問診療を受診し、歯科は希望者のみ週1回受診している。法人の老健施設には医師、看護師が常駐しており、爪切りや皮膚疾患、体調変化や異常時には即対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設しているデイケアの看護師に日々の状況を報告している。また、日中、夜間に関わらず施設内に看護師が配置されている為、すぐに相談できる体制が整えられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	近隣の医療機関とは良好な関係が築けており、入院時には連携を密にとり、退院時にはスムーズな退院調整が行えるように対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に急変時についての説明を実施している。また、重度化した際のことについても説明している。看取りについては、必要時に主治医、看護師、介護士、本人、家族と相談する場を設け、十分な理解を得てから対応を検討している。	契約時に重度化や看取りについての事業所の方針(延命措置の希望があるかを聞いて)を説明している。体調の変化により医師が終末期と判断の場合、医師、看護師、家族等関係者が話し合いをして法人関連の老健施設や協力医療機関等が変わっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月、施設にて事故対策委員会を開催しグループホーム職員も参加している。事故や苦情等の事例をもとに改善策を検討している。また、事故発生時の対応については、マニュアルの確認や会議等で研修を行う等している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成している。また、年2回の避難訓練(火災)を実施している。また、BCP計画の作成も行っており、年2回の訓練を実施する予定である。	法定の年に2回の消防訓練は、同一建物内の老健施設と共に、日中・夜間想定の下に行われている。複合施設の利点から夜間(7名)にも職員が常駐しており地域の福祉避難所にも指定されている。徒歩圏内の特別養護老人施設には厨房もあり、水、糧、発電機(72時間以上のもの)等が備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護マニュアルを作成している。また、入居者様への接遇についても新人研修マニュアルを活用し、入職時等に説明を行っている。	法人の年間研修計画やマニュアルの基にプライバシー保護、接遇マナー、人権研修が行なわれている。利用者には”さん”呼び”です、ます”口調を基本としている。羞恥心への配慮には同性介助が行われている。重要書類は事務所内の鍵付きの書庫に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に可能な限り自己選択・自己決定をして頂けるように声掛けを行っている。困難な際は職員で対応する事もあるが、都度声を掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務など職員の都合ではなく、あくまでも入居者様を中心とした生活リズムでサービス提供が行えるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室から出る際には洗面所の前で整容をして頂く事はもちろん、日々の衣類についても自己選択が行えるように準備、声掛けしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	3食の食事については厨房で調理を行っている。朝食の取り分けや片付け等が可能な入居者様は職員と一緒に作業を行っている。また、感染症対策を行いながら調理実習などを再開している。	法人の老健施設には厨房があり、管理栄養士の献立の基に立てられた料理が運ばれてくる。事業所では「調理実習」の日を(月1・2回)創り行事食やイベント食では郷土料理が提供されて思い出話に花が咲いている。おやつレクでは(ホットケーキ・焼き芋・たこ焼き等)が提供されている。年末には法人合同の餅つき大会が開催されて好評を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設する老健の管理栄養士が献立作成した食事を提供している。食事量や水分量は毎食記録すると共に入居者様に嗜好調査を行っている。また、必要に応じて自助具の準備を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを徹底している。義歯については自身で洗浄が困難な方については職員で洗浄をしている。また歯科往診時には必要に応じて口腔ケアやブラッシングの助言を頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録をもとに排泄リズムの把握に努めている。また、夜間オムツを使用する方もいるが、日中は全ての入居者様がトイレに座り排泄をされている。リハビリパンツ、布パンツ、オムツ等個々にあったものを提供できている。	排泄の基本姿勢はトイレ誘導により排泄が行なわれている。布パンで自立の(1名)、リハビリパンツの方が殆んどである。夜間はポータブルトイレ(2名)、居室にはトイレが備え付けられており、1時間ごとの見回によりトイレを覗いて利用者の状況確認を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中、レクリエーション時の体操や水分補給を行っている。また、日中はトイレに座っての排泄に取り組む事で腹圧をかけ自然な形で排泄に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、個々にあった入浴スタイルで入浴して頂き、バイタル異常等で入浴が困難な際には看護師と連携を図り清拭を行っている。職員体制の都合により夜間入浴等は行えないが、可能な限り入居者様のペースで入浴介助している。	入浴は基本週2回の午前・午後にお湯はかけ流し、基本は同性介助が行われている。浴槽を跨げなくなったらストレッチャー付きのリフト浴に切り替えて対応している。好みのシャンプーやリンスを持ち込む人や、季節により、ゆず湯・菖蒲湯、入浴剤を使って楽しむ工夫がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室である為、昼夜問わず希望により居室で静養できる環境である。また、夜間帯については消灯時間は決まっているが、希望に応じて消灯時間後についてもフロアーで職員と過ごせる環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の種類については、主治医と連携を図り、効果や副作用の理解を職員間で深めている。また、内服内容に変更があった際には入居者様の状態観察を強化している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	面接時、サービス導入時に入居者様、家族様より生活歴、趣味嗜好を確認させて頂き、日々のレクリエーションや調理実習等の内容の参考にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で外出頻度は減少しているが、可能な限り外出行事を検討しており、今年度は1回実現できている。また、外出先についても、職員だけで決定するのではなく、入居者様の希望も確認し決定している。	近隣の老健施設ではコロナのクラスターがでていて遠出の外出は見合わせている。今年度は法人の車で初詣を行い市役所の食堂でランチを楽しんでいる。リビングや居室はぐるり一周出来るようになっていて利用者の閉塞感の緩和として、館内を一周することが出来る。ベランダを活用したプランター栽培のお花の水やり等に工夫がみられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルスの影響で買い物外出等に行えていない。しかし、お金を使用する機会を作る為に事務所前の売店コーナーや定期的に訪問販売(ローソン)に来苑して頂き、買い物の楽しみの機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には携帯電話の使用を居室内でのみ許可している。また、入居者様、家族様から希望があれば施設の固定電話でも通話できる体制を整えている。手紙についても希望があれば対応可能であるも現時点では希望ないが、誕生日や母の日などは家族様からのメッセージ付きのプレゼント等を送られてくる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車椅子の使用等、居室内の環境については制限はあるものの可能な限り在宅での雰囲気と同じように入居者様の希望を聞きながら対応をしている。また、自宅からの馴染みのある物の持参についても可能な限り許可をしている。	ベランダからは田園風景が眺められ、春は桜の並木が一望できる環境がある。利用者はフロア(26m)を往復して職員から励ましの旗を貰い励みとしている。畳のコーナーには季節柄お雛様の7段飾り、天井にはモービルの雪の結晶、雑誌も置かれ、イベント時にはキーボード演奏で歌をうたっている。法人ではゴールデンリトリバー犬(さくら)の巡回で癒しを演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の自身の座席だけでなく、和室やソファで過ごして頂ける環境を作っている。また、室内だけでなく、バルコニーの人工芝を今年度張り替え、園芸をする等、屋外でも過ごして頂ける環境を整備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様、家族様から自宅からの持ち込み相談があった際には可能な限り許可している。具体的には家族写真や椅子等の希望が多く、皆様喜ばれている。	居室は掃き出し窓となっており、トイレ、洗面台、消灯台タンスが備付けられている。利用者はテレビ、回転いす、時計、家族の写真、自宅にいた時の家具等思い思いに持ち込み居心地よく過ごせる工夫がみられた。事業所のイメージカラー(淡いピンク)の暖簾が全室に掛けら暖かい雰囲気づくりがされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様がフローアや居室内で安全に生活できるように環境整備を行い、導線等を考えた家具の配置を考えている。		